

第 3 回館山市議会議定例会會議録

(第 4 号)

1 平成5年9月21日（火曜日）午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	18 番 日下 君敏
21 番 神田 守隆	22 番 福原 勲
23 番 石井 昌治	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 2名

19 番 川名 正二	20 番 生稲 隆
------------	-----------

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 斉藤 賢司	民 生 部 長 渡辺 富雄
経 済 部 長 小沼 晃	建 設 部 長 三平 孝司
水 道 課 長 谷貝 実	教 育 委 員 会 長 高橋 博夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事務局 長 補 佐 鈴木 哲
書 記 四ノ宮 朗	書 記 安田 仁一
書 記 小山 真	書 記 松浮 郁夏

1 議事日程（第4号）

平成5年9月21日午前10時開議

- 日程第1
- 認定第1号 平成4年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第2号 平成4年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第3号 平成4年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第4号 平成4年度館山市ユースホテル特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第5号 平成4年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第6号 平成4年度館山市下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について
 - 認定第7号 平成4年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
 - 認定第8号 平成4年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

開 議 午前10時01分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（福原 勤君） 日程第1、認定第1号乃至認定第8号、平成4年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質 疑 応 答

◎議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくくださるようお願いいたします。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

(21番議員神田守隆君登壇)

◎21番(神田守隆君) おはようございます。既に通告した諸点についてお尋ねをしております。私の質問は決算の事項別明細書に沿って行ってまいりたいと思います。

まず第1点は、70ページであります。老人福祉費がありますけれども、この老人福祉費に関連をいたしましてお尋ねをするわけであります。館山市内の高齢化率は既に65歳以上が20%を超えるというようなことで、この高齢者対策は今後の市政の運営でも最重要課題であることについて異論はないものと思います。現在老人保健福祉計画の策定などの作業も進められているわけであります。そこでは現在のさまざまな施策の拡充や、また新しい施策の展開などが求められておるわけであります。従来の方の施策をどう実施していくのかという視点だけではなく、この館山市の現状に沿って、最も必要で効果的な施策は何か自ら検討し、実施していかなければなりません。老人福祉という点からも、行政の抱える仕事の量はますますふえることが考えられるわけであります。また、そうでなければならぬと思うのであります。

そこで、現在の老人福祉を担当している福祉事務所の体制であります、今後の老人福祉施策等を踏まえて、人員をふやすなどして体制を抜本的に充実することが必要ではないかと思うのでありますが、この点についてどのようにお考えでありますか。

第2点は、86ページであります。上水道費の中で南房総広域水道企業団出資金ということで8億8,200万円が支出されました。これに関してお尋ねをいたします。平成7年度までに通水するというのでこの南房総広域水道事業が始められました。今回の一般質問でもこの問題が取り上げられましたが、国の予算がつかないという理由でこの事業も計画どおり進んでおりません。国に予算獲得でさらに一生懸命働きかけるとする市長の決意はお聞きしたところでありますが、それでも現在の状況では計画が大幅におくれることにな

るのではないかと、既にこれは確定的なことではないかと思うのであります。
平成7年度に通水ができると市長は見通しを持っているのでありましようか。

また、この広域水道は関係市町村の市町村長を議員とした議会が構成されております。この広域水道の議会はどの程度開かれているのか。そして、計画の進捗についての見通しなど、この議会では当然報告があり、また議論されたりしているものと思うのでありますが、この議会の議員として市長はこの館山市議会にその内容を御報告を願いたいと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。この問題は地域に重大な影響を及ぼす問題でありながら、私たち一般の議員にはなかなかその実態がわからない状態に置かれております。ぜひお願いしたいと思うのでありますが、いかがですか。

第3点目は、97ページであります。館山インダストリアルパーク用地購入費 6,224万 7,900円、これが支出されているわけですが、これに関連してお尋ねをいたします。このインダストリアルパークへの企業の進出については、これまでもいろいろ打診程度のことはあったかと思いますが、いよいよこの誘致ということも本格的に始まることになるものと思います。

そこで、この誘致すべき企業の条件について改めてどのように考えておられるのか、その際公害についての対策や使用水量の問題など、どのような条件をお考えになっておられるのかお答えをいただきたいと思うのであります。

この実施主体は市ではなく、県企業庁であります。誘致企業の公募の条件、要件等に館山市の意向が反映されるというふうに理解をしていいのかどうか、あわせてお聞かせを願いたいと思います。

106ページであります。都市下水路費についてお尋ねをいたします。工事請負費ということで2億 8,265万 1,570円が支出をされているわけがあります。決算の主要な施策の成果に関する報告を読みますと、那古の下水路工事が23.7メートルで、およそ 2,400万円ほどかかって工事が終わっております。下水路の工事というものは大変にお金を食うものだと改めて感じるころであります。この那古下水路の整備事業は平成3年度から7年度までの5カ年計画で、全体として下水路の上流域、下流域合わせて 400メートルの整備を図るということになっておりました。ようやく4年度で23メートル余の工事

が終わったという状況で、果たして平成7年度までに当初計画どおりの整備を図ることができるのかどうか危惧を感じるところであります。住民の期待も大変強いことであることはよく市当局も御存じのことと思います。5カ年計画実現の上で、問題は予算をちゃんとつけるのかどうかということになろうかと思うのであります。那古下水路の整備の進捗状況と見通しについてお聞かせをいただきたいと思うのであります。

次に、125ページであります。社会教育費、社会教育総務費ということで支出がされておるわけでありましたが、127ページの館山市文化団体連絡協議会補助金15万円の支出とあわせて、これに関連してお尋ねをしてまいりたいと思います。県立文化ホールの建設にける市民の期待は大変大きなものがございます。今年度県予算に地質などの調査費が計上されたと聞いております。そして、平成7年度完成を目指して準備が始まっておるわけでありましたが、そこで、この県立文化ホール計画に地域住民の声がどのように反映していくのか。その上で、市は県との間で意思の疎通をしていかなければならないと思うのでありますが、どのような取り組みをなされてこられたのか。

また、この県立文化ホールに関して仄聞するところによりますと、県立文化ホールの敷地については、県は買収ではなく、市が無償で提供するやにお話を伺っております。これは本当でありますでしょうか。市はこの土地問題についてどのように考えておるのか、あわせてお答えをいただきたいと思います。

次に、149ページ以下の国民健康保険特別会計に関してお尋ねをいたします。4年度の国民健康保険税の収入済額は前年度に比べて2,318万3,000円の減少となりました。そして、不納欠損額は147万1,987円増額となっております。税収の額が前の年に比べて現実にマイナスになったわけで、しかも不納欠損額は増額になったのであります。国民健康保険会計にとってはゆゆしき大変な事態であったと思うのであります。こうした中で、国民健康保険税の収納率が79.2%と80%を割り込みましたが、この事態をどう受けとめておられますか。また、こうした収納率低下の原因はどこにあるとお考えですか、お聞かせをいただきたいと思います。

国民健康保険税は前年度所得が課税基準になります。このため、ことしの

冷夏や円高不況など、現在の経済状況の悪化による市民の収入の減はことしの課税額には反映してきません。昨年の所得で課税がされるわけであります。このため、ことしの急速な収入減等に対しまして、そんなに高い国民健康保険税は払い切れないということになりがちだと思っております。収納率にことしの冷夏や不況の影響というものが出てくるのではないかと大変懸念されるところでありますが、どういうふうにお考えでありますでしょうか。

次に、税は、その課税は当然公平であるべきであります。国民健康保険税は、急激な収入減に対して必ずしも払い切れないという納税者が出てくるのは、前年所得を課税の基準としている以上、避けられない問題点を持っているかと思っております。その際、当然減免ということが問題になるかと思っております。県内八千代市の減免の規定がございますが、それを見る機会に恵まれました。その規定によりますと、当該年に急激な減収になった場合、それぞれのランクに応じて税を減額するという基準がつくられております。これまで減免について市は、それぞれ個々のケースで検討するものだから、特に基準はつくらないという態度でありましたが、もともと国民健康保険税は前年所得が課税基準になっていることや、現実に税額がかなり高いことや、そして2割を超える収入未済を抱えているこの現実などから、この面での合理的な処理をしないと、国民健康保険税の制度そのものへの不信を増長し、制度の存立をも危うくしかねないという問題点があるかと思っております。こうした現実を見るときに、減免の規定を整備をする、こういうことが必要ではないかと思っておりますが、いかがお考えでありますか。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勲君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、在宅老人福祉等の施策を充実するために福祉事務所の体制を増強する必要があると思うがどうかとの御質問でございますが、職員につきましては平成3年度に2名、平成5年度に1名の増員をし、高齢者福祉の充実に努めてきつつあるところでございます。

大きな第2の南房総広域水道出資金の事業の進捗状況はどうかとの御質問でございますが、国庫補助金の採択率が厳しい中、平成4年度末までに浄水場の造成を施行しましたほか、送水管の布設につきましては77.5キロメートル、総延長に対しまして48.4%の布設を実施しております。今年度は送水管の布設が約20キロメートル実施されるほか、大多喜浄水場の起工式も先日行われており、鋭意努力していると伺っております。

次に、南房総広域水道企業団議会についての御質問でございますが、企業団の構成員は夷隅、安房郡市の17市町村でございまして、市町村を代表する者が企業団運営に参画しておりまして、さらに企業団規約の制定や改正、出資金等の予算審議の中にも議会の意見は反映されているものと思われまゝす。また、企業団運営について協議する場として、市町村長及び議長で構成する企業団運営協議会が設けられております。

次に、大きな第3、館山インダストリアルパーク計画に関する御質問でございますが、企業誘致につきましては、事業主体であります千葉県企業庁と協議いたしまして、公害発生の心配のない先端成長業種の導入を図っていきたくと考えております。公害防止につきましては、進出企業と公害防止協定を結んでまいります。

次に、大きな第4、都市下水路についての御質問でございますが、当初の整備区間として、市道2039号線と併設されております箇所約220メートルについて平成4年度から工事に着手し、今年度中に約110メートルの整備を完了するところでございます。また、今後につきましては、同区間の整備完了後、下流部から年次計画によりまして整備をする予定でございます。

次に、大きな第5の県立文化ホール計画に地域住民の声はどのように反映していくのかとの御質問でございますが、南地域文化ホールの建設につきましては、地域の特性に配慮し、かつ地域住民の利用ニーズに対応した施設内容とするとともに、住民の文化活動を促進する視点からの運営を行うことが極めて重要であると考えております。具体的には、地域住民から市への要望及び市と地域住民並びに基礎調査を行ったコンサルタントの3者の話し合いを踏まえ、県知事に対しホールの大きさ、音響装置等、施設の機能、規模及

び内容等について要望書を提出してございます。

次に、土地に対する扱いについてでございますが、これまでの誘致の経緯や建設に係る総事業費等から、無償による貸し付けを考えております。

次に、大きな第6、国民健康保険特別会計に関しまして、国民健康保険税の収納率が80%を割ったことをどう受けとめるか、またその原因はとの御質問でございますが、平成4年度は国民健康保険税収納率向上特別対策事業を実施し、現年度分の収納率是对前年比0.35ポイントの増でありましたが、一方で滞納繰越分の収納率是对前年比6.1ポイントの減となり、保険税全体の収納率を落とす結果となりました。今後とも収納率の向上に全力を尽くす所存でございます。

次に、ことしの冷夏や不況の影響が懸念されるがどうかとの御質問でございますが、市税の収納に関しましては厳しいものがあると思われます。

次に、画一的な減免基準を作成すべきではないかとの御質問でございますが、減免はあくまで個々の納税者の担税力いかんによって決定すべきものであると考えます。個々の状況により対処してまいる予定でございます。

なお、実際の適用に当たりましては、窓口での申請以外にも、臨戸徴収や納税相談等の機会を通じまして対応しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 福祉事務所の体制の問題でありますけれども、既に3年、5年度で増員をしているから今でいいんだというふうには言わなかったけれども、そういうニュアンスの御回答だというふうに受けとめましたけれども、果たしてそれでいいのかなという率直な私の今持っている感じがあります。木更津市の福祉事務所の体制というようなものも調べてみましたけれども、やはり高齢者福祉というものに着目した課があるんです。そういう点では、館山市の場合にはそれが無いということで、木更津と館山を直に比較するわけにはいかないという面も当然それはありますけれども、しかし高齢者福祉というものが非常に重要な政治的なテーマだということから考えた場合にはやはり一考を要するんじゃないかな、そのための一定の人員的な

ものも考えなきゃならないんじゃないかなというふうに思うんです。せんだって一般質問の中でリフォームヘルパーの問題なんていうことも出ましたけれども、率直な話、これをぜひやってもらいたいと思いながらも、同時に今の体制の中でどこまでできるのかなという懸念を常を感じるんです。ですから、福祉の問題という今後の施策の展開からも、やはりここは人をふやすということを検討すべきではないか、そのぐらいの御答弁は伺えないのかということですか。いかがでしょうか。

それから、水道の問題でありますけれども、私がお尋ねしたのは、現在の進捗状況 — いろいろ努力されているということです。これはこれまでの議会での御答弁なんかでも十分承知しているつもりでお尋ねをしているわけで、けれども、実際の見通しとして当初の計画はもう既に達成が難しいということなのではないか。したがって、平成7年度中に通水できるという見通しについてどうお考えになっているのか。今の段階ですから、やりますというふうに言うのか、かなり困難が出たというふうなニュアンスで言うのか、その辺がお尋ねをしている点なんです。努力しているというお話は、それはそれとして理解をいたします。その点いかがでしょうか。

それと、この水の問題では、広域水道の議会の内容を私たち一般の議員にも御報告願いたいと言ったのは、非常にこの水の問題が地域全体に大きな影響を及ぼすし、市民の暮らしにとっても大変重大な影響を及ぼすわけです。まず、端的な問題は料金の問題です。いわゆる水の卸値段では、県は220円ということで市町村の水道には卸しますよ、こういう約束で始まっているわけですが、この事業は。それで、実際に220円という卸値で、まずその値段自身が今の動向からして、果たして確実に県は守るのかという、県は補助金を出してこれより高くないように本当にしてくれるのかどうかという懸念が — 工事費の増額だとかいうことが出てくるとすれば、大変心配なことなんです。それから、当時に第3次拡張事業、館山市内の拡張事業に基づいて相当のやっぱり工事も進めているわけです。そして、こうしたことの結果、水道の1トン当たりのコスト、これが一体どこまでなるのかな。現在、平成4年度の館山市営水道のトン当たりのコストは決算書だと161円76銭、160

円ちょっと超えた程度です。大体ここ数年この近辺の数字で推移しているわけで、これが卸値だけで 220 円、それもどうも危ないんじゃないかなという心配もするわけで、さらにこうした市営水道の拡張事業を含めると、一体このコストが幾らぐらいになるのか、これが非常に心配なわけです。そのコストの見通しについてはどういうふうに見るのかということで、最終的には住民が税で負担するか、料金で負担するかという形になってきますけれども、いずれにしてもそういう問題を議論する場合には、広域水道の動向がどうか、そして市の水道がどうか、2 本柱で問題を考えなきゃ結論が出ないということになりますので、そういうことを心配しているから、ちゃんと広域水道の議会の状況や工事の進捗状況等について承知しておきたいということなんです。その辺どういうふうにお考えになるのか。

それから、今質問の中で出しましたけれども、現実には今の段階でコストについて、平成 7 年度、あるいは 8 年度になるのかわかりませんが、その通水時点での館山市の水道のトン当たりコストについての見通しを幾らぐらいと見られているのか、試算があればお示しをいただきたいと思うんです。

それから、館山インダストリアルパークの関係でありますけれども、お話では公害のない先端成長産業を誘致して、公害防止協定も締結していくというお話で、先端的な産業で成長産業という中で、幾つかいろいろあるんですけれども、バイオテクノロジーの関係があらうかと思うんです。遺伝子組み換え技術——最近のウイルス等の遺伝子を組みかえて、それを工業的に利用するというような技術、こういうものが先端産業で、しかも高度成長といえますか、それが期待される分野ということであると思うんです。それで、この 9 月の千葉の市議会では、昭和電工が土気地区にバイオの研究工場をつくるということで、市議会でも大変な問題になったというふうに伺っております。

そこで、私がお尋ねしたいと思う点は、先端成長産業としてのバイオ産業といった場合に、このバイオの問題、生物の遺伝子組み換えというのは、それが環境に漏出するという事態が起きた場合に、これは公害にならないんです。公害というのは典型 7 公害ということで、それぞれ公害についての法律

の — 公害対策基本法の法律で規定されて、定義がされているわけですがけれども、バイオに関してはこの定義にはまらないんです。そうすると、これ何ら法的な規制の対象にならないのかということで、残念ながら現在の法律制度のもとで、このバイオに関しての規制の法的なものが私はないんじゃないかな。全部調べたわけじゃないけれども、私の承知している限りではないんです。ですから、この対策をどう進めるのかということは大変な問題で、実際にそういう企業が来ますよ、遺伝子組みかえのことで、成長産業で、それでもって先端産業でといって手旗を振って喜んでもらえないんです。うちは公害がありませんと言えば、そのとおりなんです。公害ないんです。言うところの法律上の公害がないんです。しかし、それが漏出したときの恐ろしさといったら、これはないです。大変な問題を持っているかと思うんです。それを市町村が公害防止協定等で規制をしろというのも、国も無茶なことを言う話だな。国の方もまだそういう問題についての対応策が十分とれていないということもあろうかと思うんですが、それだけにこういう問題については慎重な対応がぜひとも市町村としては必要になるんじゃないかなと思うんです。こういうバイオの関連の研究施設という問題について、先端産業あるいは成長産業という点では該当するんですけれども、そういう公害問題といえますか、法的な意味より広い意味でのそういう問題についてどういうふうにお考えになるのか、お聞かせをいただきたいと思うんです。

それから、那古の下水路工事については、私も地元ということでいつもお世話になって、大変感謝しております。ここで聞きたいことは、400メートルという5カ年計画は実現する、この平成7年度までに。そういうことで、ちゃんと約束どおりやりますよということでお言葉がいただけるのかなということですが、その辺いかがですか。

それから、文化ホールの問題については、私うわさで聞いていたんですがけれども、本当だったのかと思ってびっくりしたんですけれども、土地の問題は無償貸し付けというお話で進めているということで、ちょっとこれは事柄も大きい問題だと思うので、かなりやはり重大な問題ではないかな。というのは、市の財政運営の上でも無視できる金額ではない。ざっと見て、あそこい

らの土地の取引価格、その価格が幾らで、あそこ約1万でしたか、予定地が、現在の取引価格だと、総額的には幾らぐらいの評価になる土地なのかということなんです。いかがでしょうか。そのうちもううんと割引して、公共的なものだから半分にしようとか何とかという議論は今までもあったかと思うんですけれども、無償となるとちょっと話が大きいなという感じがするものですから、現在の土地の評価と、それからその面積からどのくらいの金額というふうに考えたらいいか、それは市の財政という点から見てどのくらいの規模の問題なのかということで承知しておきたいと思いますので、お聞かせをいただきたいと思います。

それと、国保の問題でありますけれども、非常にこの国保の収納率が低下している中で、市の職員の皆さんが大変な努力をして、収納率のアップということで頑張っておられるという姿を私も時々まちで見かけたりして、また頑張っているなということで見ているわけでありますけれども、この問題は職員の頑張りという問題だけに任せられないというか、大きな問題点を持っているのではないかなというふうに思うんです。先ほどの御答弁ですと、減免については個々のケースでというお話だったんです。払い切れないよということで、5年たちますと不納欠損で落ちちゃうわけです。これは今の税制度のもとでは不納欠損ということで処理せざるを得ないわけです。意地悪な言い方ですけども、もう払わないよといって頑張っちゃっていると、5年たつと取り立てができなくなってアウトだということは、それでいいのかなという問題を持っているわけです。それはやっぱり個々に見なきゃいけないんでしょうけれども、確かに納付が無理だとかいう現状があれば、進んでやはり減免ということで、そういうものに対しての対処をしていくというような、そこらの交通整理といいますか、そこらをもう少し突っ込んでやる必要がどうしてもあるんじゃないかなというふうに思うんです。

先ほどの御答弁で、個々のケースにおいて対応するんだ、この減免規定。確かに建前はそうなんです、減免の規定は。よく承知しています。それはめったにない珍しいケースだから個々に対応するというのはわかるんです。しかし、現状は決してそういう実態ではないだろう。たくさんそういう人が出

てきている中で、やはり一定のルールなりというものを考えないとならないんじゃないかなという意味で私は言っているんです。それは担当の職員が税の徴収に回って、そして具体的にそのうちに行って、これは大変だな、減免の申請をなさりなさいよという指導もしているというお話で、本人から出てきたばかりじゃなくて、そういう指導もしているということで、これは立派なことだというふうに思うんですけども、しかし個々の職員にとってはボーダーラインがあるわけです、必ず。この方のケースの場合には認められて、この方のケースの場合には認められないというのが減免の規定には必ず出るわけです。そうすると、そこらの判断というのは――Aという職員の場合には見てくれたけれども、Bという職員の方の場合には見てくれなかったという問題が出たら、これはやっぱり税の問題としてはゆゆしき問題を持っていると思うんです、税の公平ということからしますと。だから、私は市は何らかの規定を持って対応しているんだらうなという感じがするんです、今の答弁だと。こういうケースの場合には減免の規定を積極的に認めてあげようよ、職員の方も徴収の中でこういうケースに当たったら減免を申請するように指導しなさいよというものがあるんじゃないかなと思うんですけども、そこいらはやはりちゃんとつくらないと現場が一番困るんじゃないかなと思うんです。だから、八千代市というところの減免の規定を――それが絶対いいとは思いませんけれども、必ずしもそうではないとは思いますが、市は市なりのやはりそこらのルールというものを考える必要が既に出てきた段階ではないかなと思うんです。いかがでしょう。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（渡辺富雄君） まず、福祉事務所の職員体制について今後検討すべきではないかという御質問でございますけれども、現在作成中の館山市老人保健福祉計画の実施に伴う職員の業務体制につきましては、高齢者福祉サービス推進に支障のないように今後とも努力してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 南房総広域水道の通水の見通しの関係でございますが、国庫補助金の採択率あるいは補助金額も年々上昇してきております。しかしながら、まだ満額確保とは言えない状況でございますが、スケジュール的に厳しい面もあるわけでございますが、平成7年度通水を目指して現在も努力しているところでございます。

次に、水道料金のことでございますが、千葉県が南部の用水供給事業については円滑な運営が図られるよう支援するとのことでございまして、今後とも構成市町村とも協議しながら支援を強力にお願いしていきたいと考えておりますし、またコストにつきましては、現在事業を実施中でございますので、正確に算出はできない状況でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 館山インダストリアルパークへの進出企業の選定についての御質問でございますが、先端産業といえども、地域に悪い影響を及ぼす、またはおそれのあるような企業につきましては、これは極力避けていくべき、慎重にその選定の作業は進めてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 那古都市下水路の5カ年計画の実施計画の中でできるかという御質問でございますが、当事業は平成4年度から実施してございまして、当初の計画で土質が一定であるというふうな考え方で調査しておったんですが、工事を施工してみますと、点在して地質の悪いところが出ておるということで、したがいまして、くい基礎、あるいはそういう基礎工事に経費が必要となりますので、現在のところ5カ年計画に対してはおくれている状況でございます。今後とも早期完成に向けて努力してまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 文化ホールの土地についての御質問でございますが、現段階で不動産鑑定をしているわけではございませんので、確かなことは言えませんが、現在の地価動向の中で、恐らく平米15万から20万の範囲内に入るのではないかと考えております。

なお、この文化ホールの建設に当たりましては、我々の考えといたしまして、いわゆる地域住民の経験のある皆さん方の要望を取り入れていただきまして、さらに今後それらをよりよい施設として、今後長くいわゆる南地域の文化の拠点として機能するような、そういう質の高い施設をつくっていただく、そういう中で県の事業費等に限りがある、そういう中で無償貸し付けを考えている、こういうところでございます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 減免の取り扱いについて、職員の判断で差は出ないかとの御質問でございますけれども、減免の適用に当たりましては、過去の事例等を参考とし、内部研修を十分に図り、減免の適用に当たっては適切に対応しているところでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 水道のコストについては算出をしていないというお話なんですけれども、全然わからないということはないと思うんです。全然わからないことはないと思って、何らかの計算をしたものがあると思うんですけれども、現在 161円、市営水道の場合、これの倍にはざっくりばらんに言ってなるんではないかというようなお話なのか、いや3倍ぐらいになるという話なのか、そこらの話は全然できないんですか。

それと、インダストリアルパークの話ですけれども、バイオの問題というのは実に私もびっくりするような話がたくさんあって、心配を同時に持つんですけれども、これは県企業庁が実施主体ということで、企業の募集等もそちらで行うことになるわけですから、そういうバイオの問題等について県との間で詰めた議論なり — 詰めたという議論はあるかどうかわかりませんが、公害問題等の話の中で市としての考え等が反映できるというふうに

考えておられるか。また、今後そういうふうにしていかれるかどうか。

それから、文化ホールの問題については、全体との関係でといっても、平米15万から20万、15億ないし20億ぐらいだ、ボリュームとしては ― という負担を館山市が行うということになるかどうかということで、大変やっぱり大きな財政上の問題を持つことになると思うんです。これは市の財政運営との関係で全く初めから予定していなかったのか、こういう形で負担が出るということについてはどうかという点です。

それと、国保の問題ですが、過去の事例等を踏まえて研修を進めていく、またいるということなんですが、過去の事例を集めれば大体基準ができるんじゃないですか。また、そういうふうにしないと困るんじゃないか。過去の事例の中でもかなり矛盾もあろうかと思うんです。過去の事例で、同じような状況なんだけれども、Aさんについては認められたけれども、Bさんには認められなかったとか、きちんと明示していたわけじゃないですから、ある程度の幅というのは当然過去の事例を探っていけば出てくるかと思うんです。したがって、過去の事例を整理すれば、ある程度市としての基準というものができてくることになると思うんです。ですから、そういう作業を進めていくということが基準をつくるということじゃないかと思うんですけれども、それで新しい状況をどうやって反映させていくかということも、当然その中には議論の余地はあろうかと思えますけれども、そういうことではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（谷貝 実君） 館山市の水道料金のコストの関係でございますが、南房総からの受水単価が 220円といたしますれば、現行の館山市の料金が倍、3倍となるような大幅な値上げにはならないと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 館山インダストリアルパークの関係でございますが、バイオ関連産業について県と協議をした経緯があるかどうかという御質問でございますが、どのような業種を選定するかというようなことにつき

ましては、企業選定の前段としてこれから県と協議を進めていく予定になっております。恐らくその中でそういうようなバイオ関連産業等の話も出てこようかと思うわけでございます。

それからいま一つ、そういう選定の段階で市の意見が十分反映できるのかという御質問でございますが、やはり地域の皆さんに十分納得いただけるような答えがない限りは、やはり市としても主張すべきことは主張していくという姿勢が必要ではないか、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 文化ホール建設の予定地につきましては、市といたしましては、基本的には貸し付けるとか、あるいは売買ということではございませんで、公用もしくは公共施設の用に供する、そういうことで先行投資をしたところでございますので、御理解をいただきたいと存じます。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 減免の本来の趣旨は、減免につきましては、その申請者の生活の困窮の度合い等を総合的に判断して対応するものでございますし、また一律的な基準を設けて減免を行うことは適当でないというような意味での行政実例もございます。そういう状況を踏まえまして、個別的にそれぞれ対応してまいりたいと思います。現在のところ減免申請について、事情をしんしゃくいたしまして却下したという事例もございませんし、十分に納税者から状況等を酌み取って判断しているところでございますので、そういうやり方で進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質疑を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 続きまして、通告いたした順に質問を申し上げたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

まず最初に、決算書54ページのコミュニティ費の19節負担金補助及び交付

金の項におきますところのコミュニティ事業の補助金 1,310万円について御質問をいたします。このコミュニティ事業費はどのような形でどのようにして活用されておるのか、その内容を教えていただきたいと思います。

2番目に、3年度は502万円であったわけですが、4年度の今回の決算におきましては1,310万と、倍以上の増額になっておるわけですが、この点については非常にコミュニティの活動育成という面から歓迎するところですが、どのような活動を展開するために、またどのような根拠で増額になったのか、この点についてお尋ねをいたします。

3番目には、このコミュニティ事業の補助金は国、県の交付金によって賄われているわけですが、この4年度の決算におきましては、1,310万円のうち600万円が補助金ということになっているわけですが、この点について今後——館山市のコミュニティは非常に活発な活動をしているわけですから、2,000万、3,000万の活動をしていきたいということでもって、それを独自の計画した場合に、補助金もこれに連動して上がっていくのかどうかということをお尋ねしたいわけですが、そういう状況になるんじゃないかと思うわけですが、その関係がどういう形になっておるのか御説明いただきたいと思います。

2番目に、58ページに移ります。58ページの固定資産税の問題ですが、総務費中の13節委託料、この中に不動産鑑定委託料1,237万、固定資産税土地評価業務委託料2,279万、こういうのがあるわけですが、この委託料によりまして今大きな課題になっております固定資産税の土地の評価がえの業務をいたすわけですが、その説明の中で館山市の基準地、標準地を設定して委託をする、こういうふうに説明されておりますので、その基準地と標準地は何か所ぐらいあるのか、数を示してもらいたい。この数が多くなればなるほど正確な課税対象額が決まるわけです。少ないとどうしても大ざっぱになるという面がありますので、一応参考までにこの数を教えていただきたい。

2番目に、この委託の目標の中に類似地区の分類をするということ、そし

てこの分類地内の均一化を図る、こういうことになっておりまして、非常にいいことだと思います。そこでもって、この分類地区というのはどういう形に分けるのか。館山の旧村、新村で10地区ある。10地区でやるのか、それとも商業地とか、いろいろあるんですけれども、どういう税務上の分類というんですか、類似地区の分類をするのか。その数は幾つぐらいの類似地区というのを設定しているのか、しようとしているのか、その数を教えていただきたい。できれば地区別に、館山地区は何地区、九重地区は幾つぐらいに分かれる、こういうようなことをあわせて御説明いただければ幸いじゃないか、こういうふうに思います。

それから3番目に、この委託の中で均衡化と、それから適正化を図るというところでございますけれども、大きくなりますと焦点がぼけますので、私はこの類似地区内——類似地区内というのは同じですから、この中でもって均衡をどのように保とうとしているのか、適正化をどうしようかということについてどういう方法をとられておるのか、とろうしておるのか。とろうとしているから類似地区をつくると思うんですけれども、類似地区をつくって均衡化するというのはどういうふうに均衡化するかということを教えていただきたい。一番税法上の問題は、隣の土地とうちの土地とは固定資産税の額が違うんだよ、おれの方が高いんだよなんて、こういう文句が一番困るんであって、そういう面は、少なくとも類似地区内が均衡化されておれば余りそう大きな問題はない。館山と館野じゃ館山の方が高いのは当たり前だ、こういうことになりますけれども、それはそうとして、しかし同じ館野の中の同じ地域でもって少しあれが違ふということになってくると、これは種やかにはならないものですから、そういった——分類するわけですから、分類地区内の適正化、均衡化というのはどういう形でやろうということで分類化したのか、その点についてわかりやすいように教えていただきたい。

それから4番目に、きょうも国土庁の評価額というのが新聞発表されました、大々的に出ております。館山市も出ておりまして、若干値下がりしているわけでございますけれども、この公示価と、税務署の相続税、資産税ですか、これの評価というのが公表されているわけです、新聞で。その額とどう

も市の課税標準額との間に差があるものですから、したがって国土庁が毎年行っているところの公示価格並びに国税庁が行っておりますところの相続税を対象としたところの資産評価額、これと整合をしているのかどうか。ある地域では国土庁の土地評価額に対して70%だ、こう評価されているということですが、しかしながらこちらの地域というんですか、ここでは40%しか課税されていない、こういうようなアンバランスが全体的にある。きのうは大体その公示額の70%がということですが、必ずしも全部70%かということは問題があるわけですが、したがって一応市の当局としてこの公示額、国土庁の公示額——きょうの新聞に出ていました。きのう発表されて出ていましたけれども、それと税務署でもって公開されているところの相続税をやる固定資産評価額というのがこれは毎年出ているわけですから、これと館山市の整合性というのを図った作業なり、そういうものを行ったことがあるのか、今後やろうとするのか、この委託調査の中ではそういうことは含まれているのかいないのかということについてお伺いをいたしたいと思います。

その次に、59ページの納税組合の問題でございます。8節報償費、納税組合の奨励金が931万円計上されております。前年から比べて減少しています。前年は964万でございます。これはどうして納税組合の奨励金が減ってきているのか、減ったのかということを説明していただきたい。それは、個人市民税が3年から4年、2年から3年と増額しているんです。増額しているのに、納税組合で扱った額にパーセンテージを掛けて奨励金が出ているのに、その母体が大きくなっているのに納税組合の奨励金が減るという結果はどこにそういう結果が出てきたのか。市民税の納付額は上がっている。しかしながら、納税組合の奨励金と同じ掛け率でやっっているのに減っている、少ないながらも。これはもう逆比例になるわけですが、この逆比例はどこからどのようにして出てきているかということについて御説明を願いたい。同じことが——69ページの国民年金の奨励金も同じように扱っていますから、これは一般と国民年金と両方あわせてひとつ御説明をいただきたい。

それから4番目に、71ページに移ります。71ページの老人福祉費の中の19

節負担金補助及び交付金でございます。ここに館山市高齢者働く会補助金 173万円が計上されております。前年度に比べまして、前年度が 129万ですから、約50万ほどふえておりまして、非常に結構なことだというふうに思うわけでございますけれども、この高齢者働く会の構成人員はどのぐらいなのか、そしてどのような形で運営されておるのかお伺いしたいと思います。

それと同時に、2項目として、この働く会の活動の内容はどのようにして行われておるのか。そして、これは高齢者の人が登録してきますと、いろいろなアルバイトだとか仕事をあっせんしまして、働くと何がしかの報酬をもらって、それをいろいろお互いに有益にやっている、こういうシステムであるわけでございますけれども、この活動内容によるところの時間当たりの報酬はどのぐらいのものが支払われているのか、収入として支払われているというか、受け取られておるのかという点をひとつ参考までに教えていただきたいと思います。

それから、94ページの19節負担金補助及び交付金の漁業協同組合の合併促進事業補助金 100万円が計上されておるわけでございます。この 100万円の計上は毎年同じ額がされてきておりまして、今漁業問題は非常に重要なときにきておりますし、またリゾート開発等と関連いたしまして、ある面では曲がり角にきているというところもあるわけでございます、漁協の統合は千葉県統合促進基準要綱に基づいて進められているわけでございますけれども、館山市の場合、遅々として進捗が見られないというふうなことを耳にしておるわけでございますけれども、県の補助金が50万円おりるからといって館山市も50万出しておいて、余り合併が進まないものを予算だけ計上して、マンネリ化しているということもどうも納得がいかないし、予算が足らなかったら、これを 1,000万円にすれば促進がすぐ進むということだったら、金にはかえられませんので、促進を進めるというようなことも考えられるわけでございます、今合併が進まない状況はどういうことなのか、これは展望がどの程度出てきたのか、その点についてひとつ詳しく教えていただきたい、このように思います。

これと関連いたしまして、96ページでございますけれども、この96ページ

の19節負担金補助及び交付金の中でもって、船形漁港の修築工事負担金が1,300万円計上されておるわけでございます。この内容についてお聞きをしたいわけでございますけれども、館山市は当初予算でもって900万の予算が1,300万円に増加されまして、そして負担金を納めているわけでございますけれども、この総事業費は幾らになるのか、幾らの事業に対して館山市は1,300万円を負担しているのか、その事業内容はどういうものなのか、堤防とか云々というのがあるわけですから、この4年度の予算の1,300万円の負担はどの程度の規模の事業に対してのものなのか、これをお伺いしたい。同時に、この港湾の工事請負費というのは5年度の予算には載っていないように思うわけでございますけれども、これはこの年度でもって終わったのかどうか、今後継続されていくのかどうか、そこら辺のものについてひとつ御説明をいただきたい、このように思います。

同じ項の中で、富崎漁港の修築工事負担金が500万円出しておるわけでございますけれども、これについてもやはりどの程度のものがどういう形でできて、総事業費は幾らで、館山市はそのうち500万円を負担している。そして、これの完成なりの見込みはいつごろになっておるのか、ひとつ詳しく教えていただきたい。漁業問題については余り関心ありませんでしたけれども、最近1～2年は勉強させてもらっているものですから、ひとつこの点について教えていただきたいと思います。

それから、99ページの観光費の中の館山市観光振興実施計画策定委託料というのがあります。361万でございますけれども、これはリゾートの振興を目指して、こういう——館山市の観光振興を図るためということで説明されておりますけれども、その内容はどのようなものなのか。また、先ほどと同じように、昨年、本年度でもってこれは終わったようでございますけれども、今後この調査というものは継続されて行われるものなのかどうか、そこら辺について、これでもって一通り館山市の観光振興のための基礎調査というのは完了するのかどうか、そこら辺についてひとつ説明をいただきたいと思います。

それから、103ページに移ります。ここの道路新設改良費の中の15節工事

請負費でございます。ここに5億2,727万円が計上されているわけでございます。前年度が6億6,799万円でございますから、1億円以上の減額になっておるわけでございますけれども、3年度から4年度、市長は非常にこの道路改良、新設を進めるんだ、こういうことを言っているながら、決算上――予算委員会でも若干説明を求めましたけれども、決算上具体的な数字が出ましたので、これはどういうことなのか、その理由を教えてください。

2番目には、道路改良舗装の市民の要望はたくさん出ております。そして、私たち議員も毎年予算要求をします。今その予算要求の要旨をまとめているところでございますけれども、その中にもやっぱり道路改良の要求がかなり多く出ておるようでございますし、それがなかなか単年度、2年度ということでは実現がしなくて、どうしても私なんかの場合、4年越しで実現されないものもありまして、もうそろそろことしあたり年貢を納めてもらいたいと思っているんですけれども、なかなか財政事情、順番もあるようでございますから、こういうふうになってくると、相当市民がここもやってもらいたい、ここもこうだということで、町内会なり議員に頼んでやっているのが2年、3年ストックしているのがあるんじゃないか。そういうストックに対して、この4年度の予算はどのぐらい充足したと思うか。100の要望があると、大体50%やったから、あと50%残っていると、30%充足したから70%ある。これは来年、再来年ということでもって解消します、こういう形でもって、この年度ではそういった市民の要求、議員の要望、そういった要望に対してどのぐらいの充足をしたのか、おおむねで結構でございますから、我々が要求しているものが、この分はまだ当分難しいかなというような判断もしなきゃいけませんので、そういう観点から御説明をいただきたい。

3番目には、さきの3年の9月議会で鈴木忠夫議員が豪雨対策でもって質問した中におきまして、平成2年9月30日の豪雨の対策が質問されたわけでございます。その回答の中でもって、道路浸水が9カ所あったということでございます。そして、その9月議会でもって9カ所あったということが発表されたわけでございますから、当然4年度予算の中に反映されてこれらの解消に当たられたと思うんですけれども、この9カ所の改良、また浸水のない

ようにどの程度この4年度の予算の中でもって行われたのかどうか、これをお伺いしたい。申しわけありませんけれども、ひとつよろしく願いをいたします。

それから、125ページの報償費、社会教育の報償費の中の休業土曜日指導員の謝礼、それから生涯学習の講師謝礼、花いっぱい運動の謝礼について質問をいたします。まず第1点は、この休業土曜日の指導員の謝礼が4万2,000円出ているわけでございます。平成5年度には20万円になったわけでございますから、この年の4万2,000円はどのようなものにどのような形で支出されたのか、その実績について教えていただきたい。

2番目には、生涯学習講演会の講師謝礼が7,000円計上されております。しかしながら、予算では10万円でございます。余りにも低過ぎる。低いのはいいんですけれども、また平成5年度予算には10万円予算が組まれている。これはどうしてこういうふうになったのか、この点について説明を願いたい。

3番目には、花いっぱい運動の指導謝礼でございますけれども、これも予算案では7万円計上してあったんですけれども、決算では7,000円。それでまた、しかもこの決算に基づいて5年度の予算編成をしたと思います。予算説明のときに4年度の実績に即して予算を編成したということを言われておりますので、7万円がまた計上されておる。どうしてこういう形になったのか、この経過と理由についてひとつ御説明をいただきたい。

4番目には、当初予算には生涯学習推進会議委員謝礼というのが31万円計上されておったんですけれども、全く未執行になっております。執行ゼロです。ということは、この生涯学習の予算は出ているけれども、学習推進会議の委員会が1回も開かれなかったのか。開かれなくても30万からの予算が出ているということになりますと、何かおかしいような感がありまして、どうしてこの推進会議の謝礼金31万4,000円がゼロになったかという点について、その経過をひとつ教えていただきたいと思います。

それから、133ページでございまして、ここの委託料、小中体連の委託料でございますけれども、800万、それと134ページの体協補助金について、2点質問いたします。小中学校体育振興費の配分はどのようにして行われて

おるのか。毎年 800万でございますから、何か随分大ざっぱのようでございますけれども、館山市の中学校のスポーツがちょっと今頭打ちしておりますので、もう一踏ん張りしてもらわきゃいけないわけございまして、予算の面からそこら辺はひとつ活を入れなきゃいけない。過日私は中学校へ行って、少し中学校頑張ってくれといって校長先生初め体育の先生に言いましたところが、予算がないで、市の方も少し考えてください、こう言われましたものですから、見てみたら、大体ここ 2～3 年同じになっていますから、それも 800 万というもので予算組んで、800 万が全く同じ額でもって支出されていますから、有効、適切に使われているかどうかということについて若干見直しして、必要に応じてはやはり強化のために増額をしなきゃならないだろうとも思っておるわけございまして、そういう意味からどういう形で配分され、どういうものに使われておって、それは十分とか不十分であったというような点について説明を願いたい。

同じく体協の補助金があるわけでございますけれども、体協の補助金 714 万、前年よりも若干下がっておるわけですが、下がったことについては、予算上も下がっているわけですから、これは結構といたしまして、館山市の長期計画の中において、スポーツの振興の大きな柱に指導者の育成ということが出ています。ここ 5～6 年ずっとそういうことで、最初は指導者バンクをつくるということでしたけれども、今回の長期計画については指導者バンクが削られまして、指導者の育成、こういうふうになってきているんですけれども、これ一応重要なんですけれども、この育成費がこの体協の補助金の中に含まれているのかどうなのか。私は過日体協の役員と話をいたしまして、辻田君、余りハッパをかけるなよ。金もくれないんでもって、体協の補助金は遠征費だとか強化費でもって精いっぱいだ。赤字ぐらいだ。指導者育成費なんかもらっていないよ、こういうふうなことも出ておりましたものですから、それは困ったものだということであるものですから、この多額な 700 万を超える補助金の中に一つの指定項目として指導者の資質の向上、こういうようなものがないとすると、そのほかにこの指導者の資質の向上の予算がないわけでございますから、今までは体協に一括してお任せし

てありますという答弁ですから、それでいいと思っておったんですけれども、中身を見るとそうでもないようですから、その点はどうか、ひとつ御説明をいただきたい。

特別会計に移ります。152ページでございます。ここの国民健康保険会計の一般会計からの繰入金について御質問をいたします。収入済額は9,078万円であったわけでございます。これについて、この年度は非常に診療報酬の支出が少ないために、3億円を超えるところの黒字が出てしまったわけでございます。この処理をめぐっていろんな論議がされたわけでございますけれども、一つには、取り過ぎなんだからやはりそれは返すべきだ、こういうような意見もあったわけでございますけれども、次の年度のやはりこれは減税に充てるべきだというふうな意見もありました。しかしながら、最終的には繰入金に2億5,900万を入れるということでもって決着がついた。そのときに、今年度は黒字だけれども、長期的に見ていくと赤字の年もあるんだから、その赤字の年に繰り入れて、そして均衡をとっていく、こういう形でもって、それは結構だということであったわけでございますけれども、国民健康保険法の基本からいって、独立採算制が原則でございます。したがって、この年において調整積立金が1億7,837万円あったわけでございます。したがって、これはそういうことでもって繰り込んだわけでございますから、市からの繰入金9,000万円をゼロにして、そしてその市の9,000万円は、道路だとか教育だとか福祉の面でもって予算が足りないわけですから、そちらの方でもって使ってもらって、そして財政調整積立金の1億7,000万円の方からこれを補充していくということではできなかったのか、目的からいって。同時に、去年は2億5,000万を積み立てたわけでございますから、この年は4億3,700万の積立金が出たわけです。この2億5,000万を積み立てるときに、赤字になったり、また大幅にこの国民健康保険税が上がる場合に、それを抑制するための経費に使うんだということだったんですけれども、ことしの予算についても一般会計からの繰入金を、相変わらず1億近くのを繰り入れて、そしてこの4億数千万円に上っているところの財政調整積立金は全く手をつけず、こういうことはちょっと運営上やはり問題を来すんじゃない

いか。

したがって、ここでもって一般会計の繰り入れの減額をできなかったのかどうかということが第1点。第2番目は、財政調整基金をやはり最優先的に繰入金に入れて、財政調整基金がなくなったら一般会計からの繰り入れとか、他会計からの借入金という形で処理すべきだと思うんですけども、そういう措置がどうしてなされなかったのか、そういう作業をしたのかどうか、この2点について御説明いただきたいと思います。

それから、179ページにつきまして、これはユースホステルの特別会計でございますけれども、この中で運営委託金事業収入というのがあるわけでございますけれども、これは要するに利用料、これを基本にいたしまして運営しているわけでございますけれども、聞くところによりますと、予算額も減っております。したがって、利用者数も減ってきていると思いますけれども、この年度は前年と比べてその利用状況はどうなのか教えていただきたい。何人ぐらいに及んだのか。

同時に2番目には、現在の館山のユースホステルはどのぐらいの人数を目標にして経営基準が成り立つのか。例えば、年間5,000人以下だと赤字になる、5,000人達成すれば健全運営になる、こういうような数値があると思うんですけども、やはり今のままでは——ちょっと私も行きました。入り口のところの銅像も何か草ぼうぼうの中でもって、ちょっと寂れちゃっているなという感じでもって見ました。中へ入っていろんな人と話したら、客を集めるにはもうちょっと入り口からきれいにしてお集めるようにしなきゃ、おんぼろじゃなかなか来ませんよというようなことを言われて、ちょっと私も赤面いたしました、これは何とか——市議員がだらしのないものですから申しわけありませんということでもって話をしてきましたけれども、やはり少なくてだめだったら——だめでは困るんであって、何とか環境を整備し、そしてやっぱり目標の人まで来てもらうというようなことをやっていかないと、これは館山市として非常に問題で、観光の目玉になるところですから、ユースホステル汚いとか何だかんだ、一度行ったら二度と行くものか、こういうことじゃ困るわけで、それは中の方は、非常に支配人や管理人は一生懸

命やっているんですけれども、大分古臭くなったという感じもあるわけですから、そういう面と関連して、その動向 ― 数がどうなっているのか、こちら辺についてひとつ御説明をいただきたい。

以上、よろしく御答弁をお願いします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、ページ54、コミュニティ事業補助金についての御質問でございますが、補助金の主な内容につきましては、コミュニティ集会施設の新築2棟及び補修1棟とコミュニティ推進活動事業でございます。補助金が増加した理由につきましては、集会施設の新築が1棟増加したこと、補助金の限度額を引き上げたことによるものでございます。なお、県からの補助金は、集会施設の新築に対し、補助率2分の1、限度額 600万円、こうなっております。

大きな第2、58ページ、固定資産税土地評価業務委託に関しまして、基準地、標準地は何カ所かとの御質問でございますが、状況類似地区から1カ所ずつ選定しておりまして、地区別の御要望がございましたんで、地区別には館山地区36カ所、北条地区60カ所、那古地区23カ所、船形地区18カ所、西岬地区12カ所、神戸地区10カ所、富崎地区2カ所、豊房地区14カ所、館野地区9カ所、九重地区7カ所、合計 191カ所でございます。また、状況類似地区の分類につきましては、住宅環境や公共施設への距離、あるいは道路環境等、類似している地区ごとに分類するものでございます。なお、同一区域内におきましては、路線価格区域を除きましてほぼ同じ評点数となる予定でございます。

次に、固定資産評価額は地価公示価格や相続税評価額との整合性が図られているかとの点でございますが、平成6年度の評価がえにおきまして整合性が図られるものでございます。

大きな第3、59ページ、69ページの問題でございます。市税と国民年金の納税組合奨励金が前年度と比較して減少している。この理由についての御質

問でございますが、納税組合奨励金は前年度実績により交付するものでございます。市税につきましては、平成2年度 170組合、5,006世帯、平成3年度 160組合、4,673世帯、結局10組合、333世帯の減少によるものでございます。国民年金につきましても同様に、平成2年度 147組合、4,580世帯、平成3年度 137組合、4,247世帯、10組合、333世帯の減少によるものでございます。

次に、71ページ、大きな第4、館山市高齢者働く会補助金についての御質問でございますが、平成5年8月末現在の会員数41名、主な活動内容は草刈り、駅前駐輪場管理などで、平成4年度の実績は251件でございます。賃金についての御質問がございましたが、単純作業で600円、不快作業で900円、こうなっております。

次に、94ページ、大きな第5、漁協合併補助についての御質問でございますが、漁業協同組合の合併につきましては、平成3年2月に館山市内の漁業協同組合合併促進協議会を設立いたしまして、現在まで協議会を4回、作業部会を12回開催いたしまして、合併の基本となる事項等について協議、検討を重ねてまいりました。各漁業協同組合長及び関係者とも早期合併について共通認識を深めているところでございます。

次に、大きな第6、96ページ、船形、富崎漁港修築費についての御質問でございますが、内容といたしましては、船形漁港は防波堤長さ280メートルの部分を改良したための事業、その費用2億6,000万に対し、市の負担金1,300万円でございます。富崎漁港は、防波堤長さ53メートルの部分を改良したための事業費5,000万円に対しまして、市の負担金は500万円でございます。各県営漁港の整備につきましては、国の第8次計画では、船形漁港の全体事業予算は25億円、富崎漁港の全体事業費は14億円でございます。進捗状況につきましては、船形漁港は防波堤長さ45メートルの改良、富崎漁港の護岸長さ180メートルの改良を平成5年度計画で実施しますとほぼ完了と承っております。なお、平成6年度以降の第9次計画につきましては現在策定中と伺っております。

次に、大きな第7、観光振興実施計画、これは平成3年度の館山市観光振

興基本計画策定調査報告書の内容を踏まえ、館山市の観光振興における基本的な考え方や具体的な整備の方針について取りまとめたものでございます。内容といたしましては、全市内をゾーン区分しまして、地域の特性を生かした基盤的整備を推進しようとするものでございます。今後関係団体と協議の上、実現に向け努力してまいります。

大きな第8、道路改良舗装工事請負費につきましては、要望額12億 5,000万円に対しまして、約30%の3億 8,000万円を平成4年度において実施いたしました。今後も住民要望に対しまして、緊急性等を考慮し、対応してまいりたいと考えております。御質問の道路9カ所の危険箇所につきましては、平成3年、4年で現在までに5カ所の整備が完了しております。

大きな第9、125ページの御質問と大きな第10、133ページの御質問につきましては教育長より答弁いたします。

次に、大きな第11、国保財政調整基金と一般会計についての御質問でございますが、一般会計繰入金につきましては、従来からの繰り入れに加えて、平成4年度国の制度改正によりまして、直接国保会計に国庫支出金として歳入されておりました事務費負担金のうち、人件費分及び助産費補助金が一般会計地方交付税の需要額算入となりましたので、それを国保会計に繰り入れたものでございます。また、財政調整基金積立金につきましては、中長期的視点に立ちまして、今後の国保財政の安定化に向けて積み立てたものでございます。

次に、大きな12、ユースホステルは県の委託金によりまして運営されております。青少年の健全育成のための施設でございまして、利用者につきましては平成4年度 4,111人であり、平成3年度の 4,731人と比較いたしますと、86.89%となっております。また、利用率につきましては平成4年度 21.96%で、全国平均22.7%と比較して、ほぼ同じような利用率でございます。今後とも会員及び会員以外の利用者の拡大に努めてまいります。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな第9、休業土曜日指導員謝礼についての御質問でございますが、指導員を配置したのは4校で、そのうち3校については最初の1回、残りの1校について6回、合わせて9回分の謝礼でございます。指導員は学校の教頭やPTAの役員で、指導内容は遊び及びスポーツ活動の指導を行い、児童が安全に過ごせるよう見守ることを主な活動としてお願いいたしました。

次に、生涯学習にかかわる謝礼についてでございますが、講演会については、生涯学習推進の集いを開催し、実施したものでございます。

また、推進会議委員謝礼につきましてでございますが、推進会議の設置ができなくなったため、未執行になったものでございます。研修会については一部実施したところでございます。

公民館費の生涯学習講座講師等の謝礼についてでございますが、中央公民館及び地区公民館の主催によります各種講座や教室等の実施事業による講師謝礼でございます。

なお、花いっぱい運動指導謝礼についてでございますが、花いっぱい運動を推進する上で、計画づくりのための助言、花づくりボランティア団体の指導等にかかわる謝礼であります。講師のボランティア的な活動によりまして執行残が生じたものでございます。

次に、大きな第10、小中学校体育振興委託料の配分と内容についての御質問でございますが、配分は体育指導強化費、千葉県総合体育大会関係費、千葉県新人大会関係費及び事務局費でございます。内容につきましては、各大会の旅費、宿泊費等の派遣費、会場借上料、消耗品等の運営費でございます。なお、経費につきましては、千葉県小中学校体育連盟館山支部が各大会の必要経費を学校及び専門部に配分しております。

次に、館山市体育協会補助金に指導者の育成経費は含まれているかとの御質問でございますが、各競技団体には普及費の配分がなされておりますので、その中で活用されているものと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 以上、質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。— 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第1号乃至認定第8号、平成4年度各会計決算につきましては、10人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第8条第1項の規定により、

1 番議員 秋山 光章君	4 番議員 斉藤 実君
8 番議員 永井 龍平君	10 番議員 庄司二三男君
12 番議員 岩村 勝弘君	14 番議員 小宮 利夫君
16 番議員 鈴木 勝美君	17 番議員 鈴木 忠夫君
26 番議員 辻田 実君	27 番議員 横溝 功君

以上10人を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午前11時37分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(福原 勤君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、明22日から29日まで委員会審査のため休会、次会は9月30日午前10時開会といたします。その議事は、議案第46号乃至議案第52号、認定第1号乃至認定第8号等にかかわる各委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは9月30日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 認定第1号乃至認定第8号

1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

